

山口県のセダカコブヤハズカミキリに関する知見

高桑正敏¹⁾・田中 馨²⁾・椋木博昭³⁾・小林敏男⁴⁾

- 1) 〒 236-0031 横浜市金沢区六浦 3-16-9
2) 〒 755-0096 山口県宇部市開 5-11-22-1
3) 〒 758-0057 山口県萩市堀内 355 萩市博物館
4) 〒 244-0812 横浜市戸塚区柏尾町 1026-3

Notes on *Parechthistatus gibber* (Cerambycidae, Coleoptera, Insecta) in Yamaguchi Prefecture, West Japan

Masatoshi TAKAKUWA¹⁾, Kaoru TANAKA²⁾, Hiroaki MUKUNOKI³⁾ and Toshio KOBAYASHI⁴⁾

- 1) Mutsuura 3-16-9, Kanazawa-ku, Yokohama, 236-0031 Japan
2) Hiraki 5-11-22-1, Ube-shi, Yamaguchi Pref., 755-0096 Japan
3) Hagi Museum, Horiuchi 355, Hagi-shi, Yamaguchi Pref., 758-0057 Japan
4) Kashio-cho 1026-3, Totsuka-ku, Yokohama, 244-0812 Japan

Abstract : A brachypterous cerambycid insect, *Parechthistatus gibber* (Bates, 1873), is reviewed on the morphological and distributional views in Yamaguchi Prefecture, westernmost Chûgoku district, West Japan. Of two subspecies hitherto known, subsp. *tanakai* Miyake, 1980 is rather widely distributed in that area and represents some local variations. Another subsp. *daisen* Miyake et Tsuji, 1980 from the Jakuchi Mountains morphologically differs from the true subsp. *daisen* which is distributed in eastern Chûgoku and northern Kinki districts, so it is treated here as an undescribed subspecies which is endemic to central Chûgoku district. The latter is distinguished from the former mainly by having the smaller body, shorter antennae and inspinous apices of elytra.

キーワード : セダカコブヤハズカミキリ, 亜種 *tanakai*, 中国地方中央部亜種, カミキリムシ科, 山口県, 地域変異.

Key words : *Parechthistatus gibber*, subsp. *tanakai*, undescribed subsp., Cerambycidae, Yamaguchi Prefecture, local variation.

はじめに

セダカコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber* (Bates, 1873) は関東地方から南九州まで分布し、飛ぶ機能を失ったために地域的な形態差が著しく、三宅 (1980) は 10 亜種を認めた。山口県では山口市阿東町をタイプロカリティとする山口県亜種 subsp. *tanakai* Miyake, 1980 がほぼ全域から、鳥取県大山をタイプロカリティとする大山亜種 *daisen* Miyake et Tsuji, 1980 が寂地山系のみから知られてきた。しかし、県内における変異傾向は検討されたことがなく、未記録地域も大きく広がっていた。

このため、筆者らの 2 人、高桑と小林は 2014 年と 2015 年に山口県内各地で精力的に本種の採集を試みた。

その成果はきわめて乏しいものであり、けっして標本数は十分ではなかったが、筆者ら4人によって収集された標本を基に産地ごとの形質評価を行ったところ、多少とも興味深い点が明らかとなった。ここにその結果を示すとともに、山口県亜種をめぐる問題点なども記しておく。

なお、標本データ中の(HH-Co.)は萩市博物館蔵を示す。

山口県亜種のタイプ標本

三宅(1980)による subsp. *tanakai* の原記載では、タイプ標本列は筆者らの1人、田中の採集した標本に基づき、「完模式標本:1♂, 山口県阿武郡徳佐上, 6.VI.1965, 田中馨採集. 副模式標本1♀, 完模式標本に同じ, 2♂♂, 豊浦郡華山, 3.V.1964, 田中馨採集.」と記されている。しかし、ホロタイプの採集地=タイプロカリティは「徳佐上」ではなく、正しくは「徳佐中」の東畑から南へ向かった野道山中腹であるので、この機会に書き留めておきたい。ただし、徳佐上と徳佐中は隣接しており、個体群としての地域差は考えにくいので、実際上の齟齬はまったくないと考えられる。

ホロタイプとなった個体は伐採地の切株に生えた菌類に来ていたものである。パラタイプとなった1♀もこの伐採地で採集された。さらに田中は同地付近において1965年8月1日に1♀, 1979年5月20日に2頭を得たが、その後はこの場所からの採集例を聞かない。

亜種和名の混乱

三宅(1980)は subsp. *tanakai* の記載時に固有の亜種和名としてチョウシュウヒメコブヤハズカミキリを提唱した。しかし、「日本産昆虫総目録」(1989)ではトキサカミセダカコブヤハズカミキリと改名され、大林・佐藤・小島編「日本産カミキリムシ検索図説」でもその亜種和名が用いられている(斉藤, 1992)。もちろん「トキサカミ」はタイプロカリティとして示された「徳佐上」の誤記と考えられ、その後の大林・新里編「日本産カミキリムシ検索図説」ではトクサカミセダカコブヤハズカミキリとされ(長谷川, 2007)、現在に至っている。「ヒメコブヤハズ」が「セダカコブヤハズ」と変更されたのは、「日本産カミキリ大図鑑」で種和名を後者に当てた(草間・高桑, 1985)ためであろう。

種和名については置くとしても、こうしたことから固有名詞としての本亜種和名は、「チョウシュウ」、「トキサカミ」、「トクサカミ」の3つが入り乱れて使用されてきた。亜種和名の取り扱いに関する規約はないため、どれを用いるべきかについて断を下すことはできない。ただし、少なくとも分類学に携わる者としてごく常識的に考えるなら、原記載時に提唱された「チョウシュウ」に何の不都合もないとすれば、それを理由なく変えてしまう行為は恣意的とのそしりを免れず、またその後の混乱を想定するなら厳に慎むべきである。

なお subsp. *daisen* の亜種和名については、三宅(1980)はダイセンコブヤハズカミキリを提唱したが、「日本産昆虫総目録」(1989)でダイセンセダカコブヤハズカミキリと改名され、現在に至っている。

一方、昆虫界ではあえて固有名詞としての亜種和名を用いない立場もある。固有名詞では亜種和名と種和名とは同列であるため、専門外の人たちに対して種・亜種ランクの認識に関して混乱を与えてしまいかねないという意見からである。たとえば、「チョウシュウセダカコブヤハズカミキリ」と書いた場合、それが亜種を指しているのか、それとも種を指しているのかわからない。このため、亜種和名については固有名詞ではなく、普通名詞としての「セダカコブヤハズカミキリ山口県亜種」を用いるべきという主張もあり、本論文でもこれを採用する。

山口県のセダカコブヤハズカミキリ

形態的に次の3型が認められた。

1. ♀上翅端はごく短く丸角状に突出し、先端は広く丸まる。…………… 栃山峠型
— ♀上翅端は矢筈状ないし三角～四角状に突出し、先端は尖るか狭く丸まる。…………… 2
2. 概してより小型；触角は概してより短い；上翅端は一般に太短く突出、先端は♂で狭く丸まり、♀で先端丸まるか、角状に鈍く尖る。…………… 中国地方中央部亜種
— 概してより大型；触角は概してより長い；上翅端はとくに♂で多少とも長く突出、先端はふつう♂♀ともトゲ状に尖る。…………… 山口県亜種

1) 山口県亜種 *P. gibber tanakai*

過去の文献記録

県内における本亜種のこれまでの分布記録を次に一覧しておく（具体的な地名が記されていない文献は除く）。

東部地域（錦川流域）

岩国市木谷小西林道：池田（1987），山地・奥島（2008）；岩国市長野山：田中（2001）；周南市蒔ヶ岳山麓：池田（1987），加藤（2003）；周南市蒔ヶ岳～弟見山：田中（2001）。

中部地域（大田川以東）

山口市徳地滑国有林：山地・奥島（2008），田中（2001）；山口市徳地梶畑：田中（2001）；山口市徳地飯ヶ岳：杉本・宗野（2012）；山口市阿東町〔徳佐中野道山〕：三宅（1980）；山口市阿東町徳佐上：村上（1993）；山口市阿東町徳佐：北村（1984）；山口市阿東町徳佐下：村上（1992）；山口市阿東町徳佐栃山峠：池田（1987）；山口市阿東町十種ヶ峰：三好（1972），村上（1990），村上（1992）；阿武郡阿武町飯谷：安田（1999）；萩市弥富上山谷：川元（2009）；萩市長門峡：棕木（1990），安田（1999）；萩市野呂戸：池田（1987），高橋（1987），棕木（2008）；山口市東鳳翻山：三好・田中（1988）。

西部地域（大田川以西）

下関市狗留孫山：村上（1990），松永（1991，1995），松田（1990，1993）；下関市華山：田中（1968），三宅（1980），久保田ほか（2004），保阪（2007）；下関市竜王山：松永（1991，1995）。

特徴の概略

小～中大型，体長 10.3～21.4 mm。背面は概して灰黄土～やや褐色味を帯びた暗黄土色。触角はふつう上翅端を♂で5節中央～6節後半，♀は7節中央～8節端で越え，♂はふつう体長の1.9～2.7倍。前胸背板は無紋。上翅は変異幅が大；肩幅は広く，♂は肩部が最も幅広いか，側縁中央と同幅，側稜線は肩後方から中央へ両側ほぼ平行，♀は側縁中央または瘤状隆起で最大幅；背面隆起部はふつうやや強く，ほぼ中央～やや前寄りに位置する；表面は微小な短黄鱗毛で密～やや密に被われ，小顆粒は多いものから少ないものまでさまざま，基部の1対の縦隆起上では通常各数個以下；瘤状隆起から内方へ向かう丘状隆起は明瞭で長め，淡灰黄帯はよく発達する；瘤状隆起間には多少とも不明瞭な1対の小黒紋（黒色パイプ状毛～厚ヘラ状毛群によって形成）を現す個体があり，産地によっては高頻度で出現する；瘤状隆起から端へは通常やや長く伸び，ふつう翅端は♂で針～太針先状，♀は短針先状。

個体変異・地域変異が多少とも認められるとともに，新鮮な個体と古い個体とでは色彩が異なり，小型個体と大型個体とではとくに触角の長さにも明らかな差を生ずる。

分布：山口県，島根県西南部（高桑・門脇ほか，投稿中）。

本亜種の一般的特徴としては，次の中国地方中央部亜種・型（高桑・中野ほか，投稿中；高桑・門脇ほか，

投稿中)よりも平均して大型、体高はより高く、触角は長くて細く、上翅は微毛密度が不均一(このため細かな斑模様を呈する)、瘤状隆起は発達し、上翅端は多少とも長く突出して針状に尖り、肢はやや長いことと容易に区別がつくが、一部には小型個体を中心に紛らわしいものも出現する。

県内における地域変異

以下に標本を検視できた産地ごとの特徴を示す。一部を除けば標本数が少ないので、今後検視数が多くなれば記載内容が多少とも変わってくる可能性がある。また色彩については、新成虫の標本数が少ないため、原則として新成虫と古い個体とを区別していない。

木谷峡・小西林道(岩国市)

14♂4♀。触角の長さ上翅端の形状は個体差が著しい。色彩：灰黄土～わずかに褐色を帯びた黄土色；触角と肢は全体に明栗～黒栗色、または脛節だけが褐色がかかる。

触角：♂は体長の2.0～2.75倍、上翅端を5節後半で、♀は7節中央で越す。

上翅：小黒紋は1♂1♀に出現；端は♂ではぼ虫垂状(1♂は短い矢管状)に突出、6♂は多少とも細く長く、4♂は太く短く、いずれも先端はやや鋭く～鈍く尖り、♀は短く突出してやや鋭く尖る。

検視標本：2♂1♀, 20.V.2002, 田中伸一；7♂1♀, 27.V.2002, 田中伸一；1♀, 1.VI.2002, 田中伸一；1♂, VIII.2002羽化脱出, 秋田勝己；1♂, 31.VII.2003, 田中伸一；1♂1♀, 18.V.2004, 田中伸一；2♂, 22.V.2004, 田中伸一。

長野山(岩国市・周南市)

6♂6♀。色彩：灰黄土～やや褐色みを帯びた明黄土色；触角と肢は全体に栗～黒栗色、または触角第2節以降と脛節が褐色(10月採集1♂1♀)。

触角：♂は体長の2.1～2.7倍、上翅端を5節中央～後半で、♀は7節後半または8節端(小型1♀)で越す。

上翅：小黒紋は半数以上に出現；端は♂で矢管状に長くまたはやや短く突出、先端はトゲ状にやや鋭く尖り(例外的に1♂は虫垂状で先端鈍く尖る)、♀はやや短く突出、4♀はトゲ状にやや鋭く尖り、1♀は虫垂状で先端鈍く尖る。

検視標本：1♂, 16.VI.2001, 田中伸一；1♀, 2.VI.2003, 田中伸一；1♂, 2.VII.2003, 田中伸一；2♂1♀, 12.V.2004, 田中伸一；1♂, 12.VI.2009, 田中伸一；1♀, VII.2015材より脱出, 中崎清隆；2♀, 4.X.2015, 小林敏男・高桑正敏；1♂1♀, 12.X.2015, 下野誠之。

飯ヶ岳周辺(山口市徳地町)

6♂2♀。色彩：背面は灰黄土～淡黄土色から、やや褐色みを帯びた暗黄土色まで変化大；触角と肢は全体に黒栗色、または触角第3節以降と脛節は褐色(10月採集1♂1♀)。

触角：♂は体長の2.0～2.4倍(小型個体で短い傾向にあり)、上翅端を5節後半～6節中央で、♀は7節後半で越す。

上翅：肩部はやや張り出し、側稜線は肩後方で多少とも狭まり、瘤状隆起部では両側平行、肩よりやや狭いか同幅(♂)、または瘤状隆起部では後方へ少し広がり、肩よりやや広い同幅(♀)；基部1対の顆粒群は各10個以内；瘤状隆起から内方への丘隆起はごく短いものから会合部近くに達するものまで、かつ不明瞭なものまで変化が大きく、その直後に不明瞭な小黒紋を現すものがある(1♂1♀)；端は矢管状に長く突出し、先端はトゲ状に鋭く尖る(例外1♂：先端は鈍く尖る；1♀：三角状に突出、先端は鋭く尖る)。

検視標本：1♀, 20.IX.1997脱出, 田中馨；1♂, 梶畑, 1.VI.2000, 田中伸一；1♂, 2.VII.2000, 田中馨；1♂, 梶畑, 22.V.2001, 田中伸一；1♂, 飯ヶ岳, 6.IX.2007, 宗野俊平(杉本・宗野, 2012)；2♂, 飯ヶ岳, 6.X.2015, 小林敏男・高桑正敏；1♀, 飯ヶ岳, 20.X.2015, 有近邦夫。

十種ヶ峰(山口市)

5♂7♀。体長差が著しく、極小♂個体(体長10.3mm)から大型♀個体(体長21.4mm)まで出現。形態

的にも小型と大型個体とでは差が顕著に現れ、とくに体高、触角長、上翅側稜線の状態などに生じる。

色彩：背面は淡黄土～やや褐色みを帯びた黄土色；触角と肢は少数が全体に暗～黒栗色，多くは触角第3節以降と脛節が多少とも褐色がかかる。

触角：♂は体長の1.8（小型）～2.3倍（大型），または1.5倍（極小♂），上翅端を6節前半（極小♂は7節基部）で，♀は7節端～8節前半で越す。

上翅：♀側稜線は瘤状隆起部では後方へ少し広がるか平行，肩よりやや広いか同幅，または大型♀だと明らかに狭い；小黑紋は3♂4♀に出現；端は♂で矢筈状に長く突出，先端はトゲ状に鋭く尖り，♀はやや短く～長く突出，トゲ状にやや鋭く～鈍く尖る。

検視標本：1♂，15.VI.1992，宮垣享典（HH-Co.14346）；1♀，23.VI.1996，田中馨；1♀，8.VII.2012，椋木博昭（HH-Co.06523）；2♂1♀，2.X.2014，小林敏男；1♂2♀，5.X.2014，小林敏男；1♂2♀，23.IX.2015，小林敏男・高桑正敏。

阿武郡阿武町宇生賀

1♀のみ。色彩：褐色みを帯びた黄土色；触角と肢は全体に暗栗色。

触角：上翅端を8節で越す。

上翅：肩はそれほど張らず，側隆起は平行に後方に続き，瘤状隆起部は肩と同じ幅；小黑紋は認められない；端は矢筈状に突出し，先端はトゲ状に鋭く尖る。

検視標本：1♀，5.V.1998，安田正利（HH-Co.14349）。

萩市弥富上山谷

1♀のみ。色彩：褐色みを帯びた黄土色；触角と肢は暗栗色，触角第3節以降と脛節が少し褐色がかかる。

触角：8節中央で上翅端を越す。

上翅：小黑紋が出現；端は短く突出し，先端はやや鈍く尖る。

検視標本：1♀，18.V.2008，川元 裕（川元，2009）。

萩市野戸呂

1♂のみ。色彩：灰暗黄土色；触角と肢は全体に暗栗色。

触角：体長の2.1倍，上翅端を6節基部で越す。

上翅：小黑紋は認められない；端は矢筈状に長く突出し，先端はトゲ状に鋭く尖る。

検視標本：1♂，7.VII.1990，山本寿三（HH-Co.14348）。

男岳（萩市佐々並）

1♂のみ。色彩：灰暗黄土色；触角と肢は全体に暗栗色。

触角：体長の2.4倍，上翅端を5節中央で越す。

上翅：小黑紋あり；端は矢筈状に長く突出，先端はトゲ状に鋭く尖る。

検視標本：1♂，10.VI.2012，椋木博昭（HH-Co.05614）。

美東大滝（美祢市）

1♀のみ。色彩：褐色みを帯びた黄土色；触角と肢は全体に暗栗色。

触角：7節中央で上翅端を越す。

上翅：微小黒紋が出現；端はやや長く突出し，先端は尖る。

検視標本：1♀，20.VI.2006，K.Nakai（HH-Co.14351）。

一位ヶ岳・天井ヶ岳（下関市・長門市）

2♂のみ。色彩：褐色みを帯びた黄土色；触角と肢は暗栗色，触角第3節以降と脛節が褐色。

触角：体長の1.9と2.25倍，上翅端を6節中央と5節端で越す。

上翅：小黑紋が出現；端は矢筈状に長く突出，先端はトゲ状に鋭く尖る。

検視標本：1♂，下関市一位ヶ岳，3.X.2014，小林敏男；1♂，長門市天井ヶ岳，5.X.2015，高桑正敏。

狗留孫山（下関市）

7♂7♀. 色彩：背面は淡灰黄土～やや褐色みを帯びた明黄土色；触角と肢は全体に栗～黒栗色，または触角第3節以降あるいは脛節が少し褐色がかかる。

触角：♂は体長の1.9～2.45倍，上翅端を5節後半～6節前半で，♀は7節中央～端で越す。

上翅：側稜線は♂♀ともほぼ同様，肩後方で多少とも狭まり，瘤状隆起部では両側平行，肩より多少とも狭い；小黑紋は大部分の個体に出現；端は♂で矢筈状に多少とも長く突出，先端はトゲ状に鋭く尖り，♀はやや短く～長く突出，トゲ状にやや鋭く尖る。

検視標本：1♂，21.V.1991，田中馨；1♀，25.VIII.1991，田中馨；1♂1♀，8.V.1994，田中馨；1♂，16.V.1996，有近邦夫；1♂1♀，13.VI.1996，田中馨；1♂，4.IX.2002，三蔭外茂治；1♂，12.X.2002，三蔭外茂治；2♀，10.VII.2003羽化脱出，三蔭外茂治；1♂2♀，23.V.1996，森高樹。

華山（下関市）

5♂5♀. 色彩：ほぼ灰黄土色～褐色みを帯びた色；触角と肢は多くが全体に暗～黒栗色，少数は触角第3節以降と脛節が多少とも褐色がかかる。

触角：♂は体長の2.2～2.7倍，上翅端を5節後半～6節基部で，♀は7節端～8節基部で越す。

上翅：小黑紋は4♂1♀に出現；端は♂で矢筈状に長く突出，先端はトゲ状に鋭く尖り，♀はやや短く～長く突出，トゲ状にやや鋭く～鈍く尖る。

検視標本：2♂，14.VI.1991，田中馨；1♂1♀，26.VI.1994，田中馨；1♀，8.VII.2012，椋木博昭（HH-Co.06523）；1♀，3.X.2014，小林敏男；1♀，4.X.2014，高桑正敏；1♀，24.IX.2015，高桑正敏；2♂，5.X.2015，小林敏男・高桑正敏。

以上をまとめると，大きくは次の2型に分けられると推定される。

木谷峡タイプ

触角は概して次タイプより長く，上翅小黑紋は出現頻度が低い。上翅端は♂で多くは虫垂状に突出して先端はやや鋭く～鈍く尖り，♀は短く突出してやや鋭く尖る。

産地：木谷峡・小西林道（冠山山地）

本タイプの特徴はとくに上翅端にあるが，これからは中国地方中央部亜種の形質がいくらか浸透していることを想起させる。

長野山以西タイプ

山口県亜種の本来の特徴をもつと考えられるが，触角の長さや上翅小黑紋の発現頻度など，多少とも産地による差が見受けられる。たとえば，長野山産は一部に前タイプ型の特徴が現れ，十種ヶ峰産は全体に個体差が大きく，触角は短め，狗留孫山は上翅後方の小黑紋の出現頻度が非常に高く，華山産は♂触角がもっとも長い個体を含む一方で，♀触角はやや短い傾向にある。

産地：長野山，飯ヶ岳，十種ヶ峰，阿武郡阿武町宇生賀，萩市弥富上山谷，萩市野戸呂，一位ヶ岳・天井ヶ岳，佐々並男岳，美東大滝，狗留孫山，華山。

2) 中国地方中央部亜種 *P. gibber* subsp.

過去の文献記録

岩国市寂地山系：山口県野生生物保全対策検討委員会（2002）；山口むしの会希少昆虫類選定委員会（2011）
いずれも「ダイセンセダカコブヤハズカミキリ *P. gibber daisen*」の亜種名が当てられ，具体的な採集データは記されていない。じつは本個体群は，次に示すように大山亜種とは明らかに異なった亜種であり，ここでは中国地方中央部亜種（高桑・中野ほか，投稿中）としておくが，山口県亜種の特徴も備えているので，

それとの移行的な形質をもつと言える。

特徴の概略

小～中型，体長 12.0 ～ 18.0 mm.

色彩：淡・灰黄土色～やや褐色みを帯びた暗黄土色まで変化大；触角と肢は全体に暗～黒栗色，または触角第 2 節以降と脛節が多少とも褐色がかかる。

触角：♂ は体長の 2.05 ～ 2.3 倍，上翅端を 5 節後半～6 節後半で，♀ は 7 節後半～8 節（小型 1 ♀ では 9 節）で越す。

上翅：♀ は瘤状隆起部では両側平行に後方へ向かい，肩とほぼ同幅；小黑紋は 2♂3♀ に出現；端は♂でやや短く太く突出して先端は狭く丸まるが，1♂ は細く長く虫垂状で先端鈍く尖り，♀ は短く太く突出し，先端狭くないし広く丸まるか三角～直角状で鈍く尖る。

分布：寂地山系（寂地山・右谷山）。

大山亜種とは主に次で区別できる。概してより小型；上翅の微毛はほぼ均一（顕著な斑模様を生じない），隆起はより弱く，瘤状隆起後端が後方に突出して垂直～オーバーハング状になることはなく，瘤状隆起間にとくに 1 対の不明瞭な黒紋を生じる；上翅端は虫垂状ないし短く突出（矢筈状に突出しない），先端は♂♀とも丸まるか鈍い（針先状に鋭く尖らない）；肢はより短い。

また寂地山系産は，本来の中国地方中央部亜種とはやや触角が長いこと，♀ 上翅端が丸まらずに三角～直角状に鈍く尖るものがあることで，山口県亜種との移行的な形質を備えている。

検視標本：寂地山：2♀，6. VI. 1993，田中馨；1♀，31. VII. 1994，田中馨；1♂，20. VI. 1999，田中馨；2♂，15. VII. 1999，田中馨；1♂1♀，2. VI. 2002，田中馨；1♂，28. VII. 2002，田中馨；1♂，1. VII. 2000，椋木博昭（HH-Co.14369）；3♀，22. VII. 2001，椋木博昭（HH-Co.14378；84；90）；1♂，7. VI. 2003，田中伸一；1♂，18. VI. 2006，田中伸一；1♀，1. X. 2011，椋木博昭（HH-Co.14396），右谷山：1♂1♀，19. V. 1998，田中馨。

3) 栃山峠型 *P. gibber tanakai* f. ?

池田（1987）による 1 ♀（旧個体）のみが知られる。

体長 15.6 mm，灰黄土色で触角と肢は全体に黒栗色。

触角：上翅端を 7 節中央で越す。

上翅：小黑紋は認められない；端はごく短く丸角状に突出，先端は広く丸まる。

分布：山口市阿東町栃山峠。

検視標本：1 ♀，16. V. 1987，池田一喜（HH-Co.09268；池田，1987）

山口県内産としてはきわめて異質な上翅端を呈する。ただし，何らかの異常個体である可能性も考えられ，ここでは山口県亜種の 1 変異型としておく。

まとめと今後の調査点

山口県におけるセダカコブヤハズカミキリは，山口県亜種（図 1・2A：比較的広域に分布）のほか，寂地山系での中国地方中央部亜種（図 1・2B：高桑・中野ほか，投稿中），栃山峠型（図 1・2C）という 3 型が認められた。中国地方中央部亜種は山口県亜種への移行的な形質を生じており，そこから約 20 km も離れた木谷峡産（図 1・2A - 4）は山口県亜種であるが，中国地方中央部亜種の形質がいくらか認められる一方，長野山産（図 1・2A - 1・3）では多くの個体が通常の子口県亜種の特徴を示している。山口県亜種も形質は一様でなく，産地により多少とも差を生じている。さらに，栃山峠産は山口県としては独特な上翅端をもつ個体であった。

以上からは、次のような大きな課題が示されている。

まず1つには、栃山峠周辺の調査である。この地域に独特な型をもつ集団が分布しているとすれば、きわめて注目に値する。ただ、位置的にはタイプロカリティである野道山中腹とは直線距離で3 km 強しか離れておらず、また飯ヶ岳ともそれほど離れておらず、それらとは地形的にも連続していることから、常識的には栃山峠だけ特異な集団を形成しているとは考えにくい。

もう1つには、錦川上流域におけるより詳しい調査である。右谷山から木谷峡まで20 km にわたる分布空白地域を埋めることで、中国地方中央部亜種と山口県亜種との関係が判明するだろう。同時に長野山周辺の調査である。木谷峡は長野山の北東～東山麓に位置しているので、両地における違いが標高差によるものかどうか興味深いものがある。長野山から西側へは蒔ヶ岳まで記録がないが、この10 km 強の間がどのような状況なのかもぜひ知りたいところである。

記録の大空白地としては県東南部一帯がある。まず錦川左岸一帯が挙げられるが、ここは羅漢山（標高1109 m）を最標高とする高原が続き、生息している可能性が非常に強い。錦川右岸も中・下流域の広い範囲に渡って記録がないが、標高700 m 前後の物見ヶ岳や烏帽子岳などからの発見が期待される。呉市高照

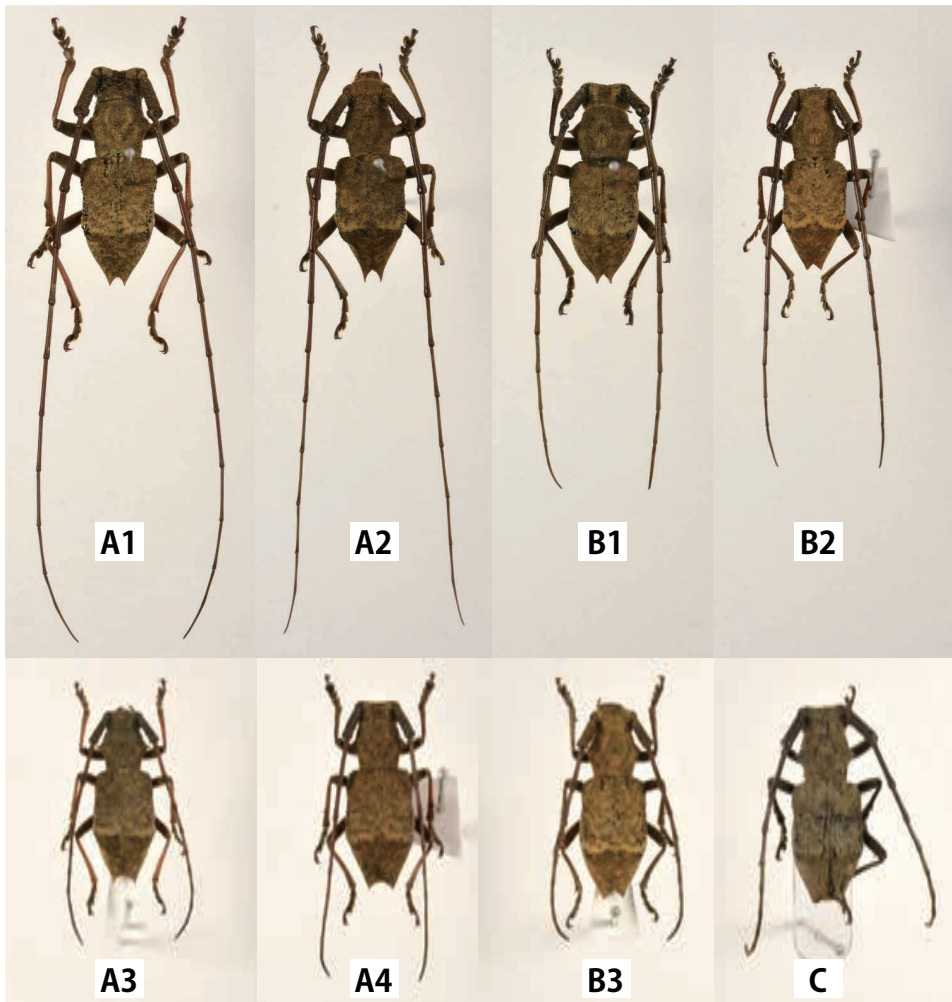


図1. 山口県産セダカコブヤハズカミキリ

A : 山口県亜種 : 1, ♂(長野山産) ; 2, ♂(華山産), 3, ♀(長野山産), 4, ♀(木谷峡産), ——B : 中国地方中央部亜種(寂地山産), 1, ♂; 2, ♂, 3, ♀, ——C : 栃山峠産♀

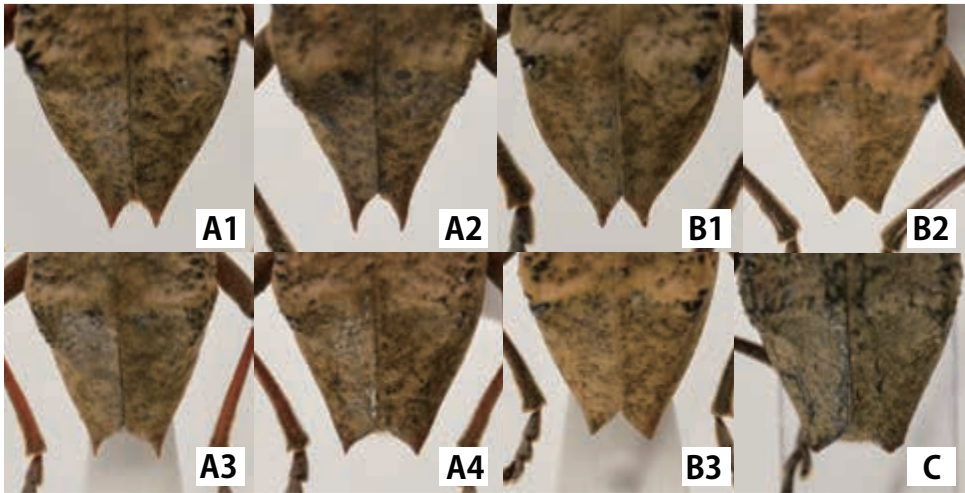


図 2. 上翅端の形状

A: 山口県亜種: 1, ♂(長野山産); 2, ♂(華山産), 3, ♀(長野山産), 4, ♀(木谷峡産), —B: 中国地方中央部亜種(寂地山産), 1, ♂; 2, ♂, 3, ♀, —C: 栃山峠産♀. 以上すべて図1におけるものと同個体.

寺山(標高 645 m)も過去に不明確ながら確認情報があるとされ、ツチイロフトヒゲカミキリが分布する周防大島と併せ、ぜひ調査をお願いしたいところである。

山陰側では阿武町や萩市須佐町など県北東部での採集例がきわめて少ない。十種ヶ峰産は個体差が非常にめだつが、その原因は中国地方中央部亜種の影響を受けてきた可能性が考えられないではない。県北東部での相の解明にも期待したい。

おわりに

セダカコブヤハズカミキリは山口県亜種・中国地方中央部亜種(「大山亜種」として)ともに山口県の絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。この理由としては、夏緑林や照葉樹林に生息するため、針葉樹植林地が広がった山口県では衰亡傾向が著しいことがあげられる。一方、下関市華山のように現在でも良好な樹林地が広がる地域でも、シカの採食圧による林床植生の喪失とそれによる乾燥化のためか、現在ではきわめて個体数を減じたと考えられる場所もある。

本種のような森林性の地上生活者は、その環境変化による衰亡が容易に懸念される。生息環境を保護・保全することを強く願うとともに、本種の分布・地域形態相が解明されることに期待したい。

謝 辞

山口市の有近邦夫氏と岩国市の下野誠之氏には現地での採集に関して大変お世話となったばかりか、お二人の採集個体や知り合いからの標本を頂戴した。また埼玉県三蔭外茂治氏には標本の恵与を受け、三重県の秋田勝己氏には山口県内の標本多数を貸していただき、鹿児島県の森一規氏と徳島県の滑田保夫氏には情報を提供していただいた。ここに記して厚くお礼を申し上げる。

引用文献

長谷川道明(2007)コブヤハズカミキリ族. 大林延夫・新里達也編, 日本産カミキリムシ, pp. 570-576. 東海大学出版会, 秦野.

- 保阪健市 (2007) 2006年に山口県各地で採集したコウチュウ類. 山口のむし, (6): 33-41.
- 池田一喜 (1987) 杉林でヒメコブヤハズカミキリを採集. 蝶州, (1): 25.
- 加藤重和 (2003) 山口県産カミキリムシ数種の記録. 山口のむし, (2): 65.
- 川元 裕 (2009) 山口県北部におけるカミキリムシの記録. 山口のむし, (6): 33-41.
- 北村英忠 (1984) 山口県徳佐地方のカミキリ採集品目録追加. 北九州の昆虫, 31(3): 138.
- 久保田孝・[久保田光矢・久保田文子] (2004) 2003年に採集した山口県の昆虫類. 山口のむし, (8): 54.
- 草間慶一・高桑正敏 (1984) フトカミキリ亜科 (*Asaperda*, *Rhodopina*, *Exocentrus*, *Sphingothorax*, *Planeacantha*, *Sciades*, *Phloeopsis*, *Boninella* を除く). 日本鞘翅目学会編, 日本産カミキリ大図鑑, pp. 352-368, 374-462, 467-493, 511-549. 講談社, 東京.
- 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (1989) 平嶋義宏監修, 日本産昆虫総目録. 1767 pp.
- 松田勝毅 (1990) ヤマトヒメハナカミキリを狗留孫山で採集する (付・セダカの記録). 北九州の昆虫, 37(3): 124.
- 松田勝毅 (1993) 山口県狗留孫山で採集した天牛類. 北九州の昆虫, 40(1): 95-96.
- 松永善明 (1991) 下関市及びその近郊で採集及び目撃した面白い甲虫: 蝶: トンボなど数種に就いて (1989年より1991年まで). ちょうしゅう, (5): 6-7.
- 松永善明 (1995) 山口県 (主として下関市) で採集した甲虫 (II). ちょうしゅう, (9): 7.
- 三宅義一 (1980) コブヤハズカミキリ類の分化と分布. 北九州の昆虫, 27(2): 61-84, pls. 5-6.
- 三好和雄 (1965) 山口県産天牛目録. 山口県の自然, (14): 15.
- 三好和雄 (1972) 山口県のカミキリ. 月刊むし, (15): 10-14.
- 三好和雄・田中 馨 (1988) 山口県の昆虫. 197pp., 32pls. 山口県立博物館.
- 椋木博昭 (1990) カミキリ奮闘記. ちょうしゅう, (4): 13-14.
- 椋木博昭 (2008) 萩市のカミキリムシ目録II. 萩博物館調査研究報告 (4): 9-17.
- 村上幸一 (1990) 山口県徳佐周辺のカミキリ (3). 北九州の昆虫, 37(3): 125-130.
- 村上幸一 (1992) 山口県徳佐周辺のカミキリ (4). 北九州の昆虫, 39(2): 153-155.
- 中村慎吾 編著 (2014) 広島県昆虫誌 [改訂増補版]. 2650 pp. 比婆科学振興会, 庄原.
- 斎藤秀生 (1992) アカガネカミキリ族+コブヤハズカミキリ族. 大林延夫・佐藤正孝・小島圭三編, 日本産カミキリムシ検索図説, pp. 574-578. 東海大学出版会, 東京.
- 杉本博之・宗野俊平 (2012) 山口県の昆虫類レッドリスト 2011 に掲載されている甲虫の記録. 山口のむし, (11): 83-84.
- 高橋秀哉 (1987) 野戸呂のヒメコブヤハズカミキリ採集日記. 蝶州, (1): 25-26.
- 高桑正敏・門脇久志・福井修二・小林敏男, 島根県と鳥取県西南部のセダコブヤハズカミキリ相 (投稿中)
- 高桑正敏・中野一成・奥島雄一, 岡山県のセダコブヤハズカミキリ相 (投稿中)
- 田中 馨 (1968) 豊浦郡華山のカミキリムシ科. 山口県の自然, (20): 22-25.
- 田中 馨 (2001) 山口県の甲虫類分布資料 I (田中伸一氏採集による). ちょうしゅう, (13): 18-19.
- 山口県野生生物保全対策検討委員会 (2002) レッドデータブック山口. 513pp. 山口県環境生活部自然保護課.
- 山口むしの会希少昆虫類選定委員会 (2011) 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198 pp. 山口むしの会.
- 山地 治・奥島雄一編 (2008) 倉敷市立自然史博物館収蔵資料目録第13号 平田信夫カミキリムシコレクション. 312 pp., 1 pl. 倉敷市立自然史博物館.
- 安田正利 (1999) 山口県阿武町でセダコブヤハズカミキリを採集. ちょうしゅう, (11): 17.